



2023年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年1月13日

上場会社名 株式会社 リンガーハット 上場取引所 東 福
 コード番号 8200 URL <https://www.ringerhut.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長兼CEO (氏名) 佐々野 諸延
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 小田 昌広 TEL 03-5745-8611
 四半期報告書提出予定日 2023年1月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2023年2月期第3四半期の連結業績（2022年3月1日～2022年11月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年2月期第3四半期	27,474	9.8	△609	—	△26	—	△307	—
2022年2月期第3四半期	25,031	△1.8	△1,207	—	1,468	—	657	—

(注) 包括利益 2023年2月期第3四半期 △336百万円 (—%) 2022年2月期第3四半期 647百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年2月期第3四半期	△11.87	—
2022年2月期第3四半期	26.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2023年2月期第3四半期	29,023	12,058	41.5	464.76
2022年2月期	34,118	12,521	36.6	482.67

(参考) 自己資本 2023年2月期第3四半期 12,039百万円 2022年2月期 12,502百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年2月期	—	0.00	—	5.00	5.00
2023年2月期	—	0.00	—		
2023年2月期（予想）				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2023年2月期の連結業績予想（2022年3月1日～2023年2月28日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	37,500	10.6	△300	—	200	△89.8	△450	—	△17.37

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

（注）詳細は添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年2月期3Q	26,067,972株	2022年2月期	26,067,972株
② 期末自己株式数	2023年2月期3Q	162,634株	2022年2月期	165,152株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年2月期3Q	25,904,066株	2022年2月期3Q	25,282,738株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(1) 本資料に記載されている予想数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(2) 本資料のサマリー情報、【添付書類】2ページ「経営成績に関する説明」及び9～10ページ「セグメント情報等」に記載している売上高には、その他の営業収入を含めております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9
3. 補足情報	11

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済環境は、新型コロナウイルス感染症拡大防止への取り組みやワクチン接種が進み、経済活動の制限も緩和され、景気の持ち直しの動きが続いております。しかしながら不安定な国際情勢の長期化により、原材料・エネルギー価格の更なる高騰も懸念され、依然として先行き不透明な状況が続いております。

外食産業におきましては、行動制限の緩和に伴い回復基調にあるものの、大人数での会食や宴会の自粛傾向の継続及び消費者のライフスタイルの変化等により、事業を取り巻く環境は厳しい状況が続いております。

当社は、このような状況の中でも食の「安全・安心・健康」に継続して取り組むとともに『全員参加で、永続する企業体質をつくろう』をスローガンに、企業価値向上に努めてまいりました。2022年7月22日に創業60周年を迎えた特別企画として様々なキャンペーンを実施しております。

また、ご好評いただいているリンガーハットの冷凍商品を24時間購入できる自動販売機の設置を進め、8月には東京都青梅市、9月には福岡県福岡市に冷凍商品直売所を開設いたしました。冷凍商品自動販売機は当第3四半期連結累計期間末で69ヶ所設置となりました。

出退店につきましては、5店舗を出店し20店舗を退店した結果、当第3四半期連結累計期間末の当社グループ合計の店舗数は国内664店舗、海外9店舗の計673店舗（うち直営店舗496店舗、フランチャイズ店舗177店舗）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は274億74百万円（前年同期比9.8%増）、営業損失は6億9百万円（前年同期営業損失12億7百万円）、経常損失は26百万円（前年同期経常利益14億68百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は3億7百万円（前年同期親会社株主に帰属する四半期純利益6億57百万円）となりました。

セグメント別の概況は次のとおりであります。

(長崎ちゃんぽん事業)

「長崎ちゃんぽんリンガーハット」では、創業60周年記念商品第2弾として「彩り月見ちゃんぽん・皿うどん」を販売いたしました。10月からは第3弾として「かきちゃんぽん」を販売しております。

出退店につきましては、5店舗を出店し18店舗を退店した結果、当第3四半期連結累計期間末の店舗数は国内で579店舗、海外で7店舗の計586店舗（うちフランチャイズ店舗160店舗）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の既存店売上高前年比率は110.1%となり、売上高は218億69百万円（前年同期比9.8%増）、営業損失は6億72百万円（前年同期営業損失11億8百万円）となりました。

(とんかつ事業)

「とんかつ濱かつ」では、創業60周年記念商品第2弾として、秋冬の人気商品「牡蠣ふらい」を、広島県産牡蠣ととんかつが堪能できる全6種類のメニューにて販売しております。また、毎年好評の福袋及び濱かつ三段重の予約販売を11月より開始いたしました。

出退店につきましては、2店舗を退店した結果、当第3四半期連結累計期間末の店舗数は、国内で85店舗（和食業態の長崎卓袱浜勝、とんかつ大學を含む）、海外で2店舗の計87店舗（うちフランチャイズ店舗17店舗）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の既存店売上高前年比率は108.6%となり、売上高は54億95百万円（前年同期比10.0%増）、営業利益は39百万円（前年同期営業損失1億88百万円）となりました。

(設備メンテナンス事業)

設備メンテナンス事業は、当社グループ内における直営店舗及びフランチャイズ店舗の設備メンテナンスに係る工事受注や機器保全などが主な事業内容であり、当第3四半期連結累計期間の売上高は12億33百万円（前年同期比0.3%減）、営業利益1億8百万円（同11.5%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ50億95百万円減少し、290億23百万円となりました。これは主に資本性劣後ローンを含む長期借入金の返済による現金及び預金の減少によるものであります。2021年1月に実施した資本性劣後ローンによる50億円の調達のうち、20億円を返済いたしました。

負債は前連結会計年度末に比べ46億32百万円減少し、169億64百万円となりました。これは主に資本性劣後ローンを含む長期借入金の減少によるものであります。

純資産は前連結会計年度末に比べ4億62百万円減少し、120億58百万円となりました。これは主に当期純損失3億7百万円を計上したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2023年2月期の連結業績予想につきましては、2022年10月14日に発表した前回予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	7,908,073	2,315,187
売掛金	1,037,457	1,316,734
商品及び製品	155,816	196,237
仕掛品	11,014	9,059
原材料及び貯蔵品	298,541	334,508
前払費用	249,569	244,692
未収入金	663,239	772,639
その他	230,176	292,114
貸倒引当金	△79,302	△79,114
流動資産合計	10,474,586	5,402,057
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	9,960,282	9,850,694
機械装置及び運搬具(純額)	1,781,511	1,715,436
土地	5,828,410	5,800,482
リース資産(純額)	89,478	72,729
建設仮勘定	60,019	57,462
その他(純額)	702,274	835,849
有形固定資産合計	18,421,976	18,332,654
無形固定資産	437,865	418,923
投資その他の資産		
投資有価証券	598,664	639,031
繰延税金資産	603,919	619,229
退職給付に係る資産	73,779	80,795
差入保証金	843,265	838,360
建設協力金	46,552	63,534
敷金	2,288,157	2,287,399
その他	330,051	343,110
貸倒引当金	—	△1,987
投資その他の資産合計	4,784,390	4,869,474
固定資産合計	23,644,233	23,621,051
資産合計	34,118,819	29,023,109

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年2月28日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	682,819	947,883
1年内償還予定の社債	232,000	50,000
1年内返済予定の長期借入金	2,952,704	2,992,960
リース債務	96,186	79,664
未払金	852,733	673,147
未払費用	1,069,701	1,336,402
未払法人税等	543,310	66,606
未払消費税等	348,912	251,356
株主優待引当金	109,939	81,885
店舗閉鎖損失引当金	—	1,000
販売促進引当金	3,570	—
資産除去債務	18,491	26,959
その他	535,842	625,143
流動負債合計	7,446,212	7,133,010
固定負債		
社債	50,000	—
長期借入金	10,854,390	6,603,612
長期未払金	52,185	47,146
リース債務	190,836	134,777
株式給付引当金	134,769	130,178
退職給付に係る負債	860,892	971,523
長期預り保証金	346,867	339,367
資産除去債務	1,519,026	1,512,677
繰延税金負債	588	—
その他	141,352	91,939
固定負債合計	14,150,908	9,831,221
負債合計	21,597,120	16,964,231
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,002,762	9,002,762
資本剰余金	2,193,474	2,193,474
利益剰余金	1,509,085	1,071,257
自己株式	△357,994	△353,595
株主資本合計	12,347,328	11,913,899
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	183,492	219,542
為替換算調整勘定	△10,222	△37,929
退職給付に係る調整累計額	△17,977	△55,713
その他の包括利益累計額合計	155,292	125,899
非支配株主持分	19,078	19,078
純資産合計	12,521,699	12,058,877
負債純資産合計	34,118,819	29,023,109

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
売上高	24,244,046	26,648,647
売上原価	9,078,614	9,712,753
売上総利益	15,165,432	16,935,894
その他の営業収入	787,664	826,234
営業総利益	15,953,097	17,762,128
販売費及び一般管理費	17,160,978	18,371,139
営業損失(△)	△1,207,881	△609,010
営業外収益		
受取利息	2,267	2,679
受取配当金	8,483	9,554
為替差益	—	82,570
受取補償金	13,986	—
補助金収入	2,924,878	665,381
その他	17,986	23,722
営業外収益合計	2,967,601	783,908
営業外費用		
支払利息	213,081	168,611
為替差損	24,086	—
リース解約損	13,565	4,405
持分法による投資損失	4,680	—
支払手数料	19,319	15,479
その他	16,795	12,537
営業外費用合計	291,528	201,033
経常利益又は経常損失(△)	1,468,191	△26,136
特別利益		
固定資産売却益	488	—
店舗閉鎖損失引当金戻入額	4,678	—
特別利益合計	5,167	—
特別損失		
固定資産売却損	—	5,093
固定資産除却損	43,711	32,613
店舗閉鎖損失	5,083	5,880
店舗閉鎖損失引当金繰入額	—	1,000
減損損失	19,754	56,252
特別損失合計	68,549	100,840
税金等調整前四半期純利益又は 税金等調整前四半期純損失(△)	1,404,809	△126,976
法人税等	747,150	180,518
四半期純利益又は四半期純損失(△)	657,658	△307,494
親会社株主に帰属する四半期純利益又は 親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	657,658	△307,494

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年3月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	657,658	△307,494
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	17,554	36,050
為替換算調整勘定	20,599	△27,706
退職給付に係る調整額	△51,985	△37,736
持分法適用会社に対する持分相当額	3,889	—
その他の包括利益合計	△9,942	△29,392
四半期包括利益	647,716	△336,887
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	647,716	△336,887

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することとしております。これにより、従来は他社が運営するポイントプログラムについて、商品販売時に付与されるポイント相当額を販売費及び一般管理費として計上しておりましたが、取引価格から付与ポイント相当額を差し引いた金額で収益を認識する方法に変更しております。また、従来は販売費及び一般管理費に計上しておりました顧客に支払われる対価のうち、顧客から受領する別個の財又はサービスと交換に支払われるものである場合を除き、取引価格から減額する方法に変更しております。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第3四半期連結累計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しております。ただし、収益認識会計基準第86項に定める方法を適用し、第1四半期連結累計期間の期首より前までに従前の取扱いに従ってほとんどすべての収益の額を認識した契約に、新たな会計方針を遡及適用しておりません。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は291,183千円減少し、販売費及び一般管理費は291,183千円減少しておりますが、営業損失、経常利益及び税金等調整前四半期純損失に与える影響はありません。また、利益剰余金の当期首残高に与える影響はありません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下「時価算定会計基準」という。)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。

(追加情報)

新型コロナウイルス感染症に関する主要な仮定について重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2021年3月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	設備 メンテナンス	合計		
売上高(注) 3						
外部顧客への売上高	19,924,991	4,997,558	109,160	25,031,711	—	25,031,711
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	1,128,959	1,128,959	△1,128,959	—
計	19,924,991	4,997,558	1,238,120	26,160,670	△1,128,959	25,031,711
セグメント利益 又は損失(△)	△1,108,422	△188,579	122,532	△1,174,469	△33,411	△1,207,881

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△33,411千円には、セグメント間取引消去16,171千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△49,583千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

3. 売上高にはその他の営業収入を含めております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「長崎ちゃんぽん」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間中の減損損失の計上額は19,754千円であります。

「とんかつ」セグメントにおいて、該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間（自 2022年3月1日 至 2022年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損 益計算書計上 額 (注) 2
	長崎 ちゃんぽん	とんかつ	設備 メンテナンス	合計		
売上高(注) 3						
外部顧客への売上高	21,868,406	5,495,373	109,910	27,473,690	1,191	27,474,881
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,088	292	1,123,996	1,125,377	△1,125,377	—
計	21,869,495	5,495,665	1,233,906	28,599,067	△1,124,185	27,474,881
セグメント利益 又は損失(△)	△672,486	39,545	108,463	△524,477	△84,533	△609,010

(注) 1. セグメント利益又は損失(△)の調整額△84,533千円には、セグメント間取引消去△20,995千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△63,537千円が含まれております。

2. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失(△)と調整を行っております。

3. 売上高にはその他の営業収入を含めております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「長崎ちゃんぽん」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間中の減損損失の計上額は52,403千円であります。

「とんかつ」セグメントにおいて、当第3四半期連結累計期間中の減損損失の計上額は3,849千円であります。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(収益認識に関する会計基準等の適用)

会計方針の変更に記載のとおり、第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理の方法を変更したため、報告セグメントの利益又は損失の測定方法を同様に変更しております。

3. 補足情報

フランチャイズ店舗の売上高を加味した総売上高

期別	項目	長崎ちゃんぼん事業			とんかつ事業			外販事業	その他	合計
		直営店	フランチャイズ店	合計	直営店	フランチャイズ店	合計			
2023年 2月期 第3四半期	売上高 (百万円)	17,789	5,864	23,653	4,971	1,214	6,185	1,788	113	31,739
連結累計 期間	店舗数 (店)	426	160	586	70	17	87	—	—	673
2022年 2月期 第3四半期	売上高 (百万円)	15,990	5,721	21,711	4,531	1,108	5,639	1,697	126	29,173
連結累計 期間	店舗数 (店)	426	176	602	72	17	89	—	—	691
対前年比率	売上高	111.3%	102.5%	108.9%	109.7%	109.6%	109.7%	105.4%	89.7%	108.8%
	店舗数	100.0%	90.9%	97.3%	97.2%	100.0%	97.8%	—	—	97.4%

(注) 当社グループはフランチャイズ事業を拡大しており、外部売上高の純粋比較ができるように、参考資料として掲示しております。

なお、連結損益計算書に記載されている売上高は、フランチャイズ店舗から受け取るロイヤリティー収入と材料等売上高を計上しているため、この表の数値とは一致いたしません。